

われらが町内 わがグループ

比内前田

~皆さん 芳賀さん?~



今回のこのコーナー、戸数36戸中35戸までが何と芳賀さんという珍しい部落を紹介します。

この部落は「比内前田」で市の南西端、引矢川沿いの、周囲を田んぼや森林に囲まれた自然豊かなところです。

現在その世帯数は36、人口は169人。

かつては「前田村」と呼ばれていた同地区でしたが、阿仁前田と間違われ易く、区別するために「比内」を冠称、「比内前田」となりました。

昭和51年同地区からさらに沢奥に入った「合津前田」で集団移転があり、全世帯(8世帯)中5世帯がここに引っ越しましたが、後にも先にも大きな人の出入りといえばそれくらいのもの。もう一つ大きなできごとして昭和48年部落のすぐそばに「市民の森」が作されました。おかげで道路の舗装整備がされバスの運行も始まり町への便がぐっとよくなりました。しかし、一方で突然の人波や車の洪水に、のんびりムードの部落の人たちにとっては多少の戸惑いも。

この部落の殆どの家はむかしからの純農。一戸あたりおよそ2町歩(約2ha)の田んぼを耕し、生計をたてています。いち早く農業の近代化を手がけたおかげで

静かなたたずまいの比内前田

かつては富裕な部落としてたくわえもありましたが、今は減反など農業の諸問題を抱え見通しは決して明るくありません。それだけに将来を考え植林事業を進めなどひとつの転期にさしかかっています。ところで、どこもかしこも芳賀姓といふこの部落。その辺の事情をある長老は「芳賀という名は浅利氏の家臣で約800年前に落人としてここに居を構えたという説が有力です。また埼玉の方にも芳賀姓が多いと聞きましたが、何らかつながりがあるのでは…」と。ただ一人姓の異なる加賀谷さんはここに住みついて6代目。かつて合津前田に金山があった頃、阿仁からここに移住してきました。「名字で呼ばれてわかるのは私一人です」と笑います。

それにしてもこの部落、さぞかし郵便屋さん泣かせのことでしょうね……。



長木川での「クリーンアップ作戦」

よりよい環境を求めて、市内各地でクリーンアップ作戦が展開されています。

六月八日の日曜日には、長木川をはじめ、矢立地内の下内川で、十五日には市民の森で、多

数の市民が清掃に汗を流しました。

長木川クリーンアップは、昭

和四十七年に青年会議所を主催

に「長木川をきれいにしよう協

議会」(神林正樹会長)が発足

して以来、継続して実施され、今年で九回目になります。

今年からは、長木川だけにと

どまらず、市内全域へクリーン

の輪を広げようということで、今までの協議会に代って「クリーン大市民会議」(高橋信一、会長)が新たに発足され、五月三十日(五四三・ゴミナシ)に開催が行われました。

こうした全市的なクリーンア

ップ作戦により、環境の美化はもちろんのこと、全市民へのクリーン思想浸透の目的もおおいにはたされたといえます。

河川や公園などのゴミの量は年々減ってきていますが、空地などでのゴミ投棄がまだ見受けられ、ゴミの中にはビニール製品やカバン・ビン類などの生活廃棄物が依然として目立っています。

近隣社会の環境美化は、そこには住むわたしたち自らの心くばり、協力こそが快適な生活環境へ近道です。

これからは「拾う」運動から

「捨てない」運動へと、クリーンの輪を広げていきたいものです。

みんなで広げようクリーンの輪 各地でクリーンアップ作戦

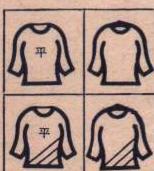
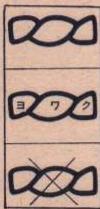
49-3111です
市役所の電話番号は

△防犯灯を寄付・5月20日
るい町づくりにと、防犯灯十
基が寄付されました。

フォトニュース

△市内施設めぐり・6月5日▽
百七十名がバス三台で十一の施設を見学
「ええどこ見て、天気もエガつたし、本当にエガつたシ」が解散時のみんなの声△矢立小で田植え・5月28日▽
矢立小学校の児童約百人が、十七丁の水田に昔ながらの田植えをしました。△金八鶏についてお伝えします。
東北電力大館営業所から「明
るい町づくり」にと、防犯灯十
基が寄付されました。

フォトニュース



◆ドライクリーニング
ドライクリーニングは、有機溶剤を使う洗たく方法で、

◆絞り方
絞り方

織維製品の取り扱い方を知ろう
— 絡表示の読み方 —



ふるさとの
文化財
No. 6

県の天然記念物

「金八鶏」 昭和34年1月7日指定

所在地 大館市周辺
管理者 大館市

声良鶏、比内鶏と統いたところで、今回は金八鶏についてお伝えします。

この金八鶏は、秋田県が動物部門で初めて天然記念物に指定したもので、今から約百四十年前の天保年間に、闘鶏を作る目的で、地元の職人層でさかんに飼育され、その後も選抜交配が重ねられ、明治三十五年頃に現在の体格になったのです。

金八鶏の語源は、交配による最初の作出者

が、当市川原町の魚屋で、非常に短気(方言でキンバ)であったことから「キンバ鶏」と名付けられたとも伝えられ、また、その人の名前金八からそう呼ばれたとも伝えられています。

特徴は、頭部が大きく、ビジが太く発達し

り、尾羽のまとめたは他鶏にはみられない

エビ尾となっています。羽色は地鶏の血をひいて褐色、白相などがありますが、現在は紫

黒色を帯びた黒色が珍重されており、この黒

色のみが県の指定となっています。

この鶏の標準体重は雄が一・八kg、雌が一・二kg、体長二〇cmで、きわめて小型ですが

自分より大きい鶏には自ら戦いをいどむ、闘志満々たる習性をもっています。

現在、市内で約八十羽が愛好家の方々に保護されています。

特徴は、頭部が大きく、ビジが太く発達し

り、尾羽のまとめたは他鶏にはみられない

エビ尾となっています。羽色は地鶏の血をひいて褐色、白相などがありますが、現在は紫

黒色を帯びた黒色が珍重されており、この黒

色のみが県の指定となっています。

この鶏の標準体重は雄が一・八kg、雌が一・二kg、体長二〇cmで、きわめて小型ですが

自分より大きい鶏には自ら戦いをいどむ、闘志満々たる習性をもっています。

現在、市内で約八十羽が愛好